

保健医療技術学部 学部基幹科目（2019～2021年度第1学年次入学者適用）

区分	科目	履修開始メスタ	1	2	3	4	5	6	7	科目概要
			建学の理念に基づいて、共生と平等、人間尊重、平和への希求を体现し、人類の進歩に貢献する力を有している	医療人として常に人の側にとって、人とともに人生の苦しみとたたかう強い意志や意欲を有している	医学・医療・保健の世界で活躍するために必要な学力を有し、常に実践の質を高める努力を続ける力を有している	医療・保健の現場で必要とされる読み書き能力や良好なコミュニケーション能力を有している	研究の面白さや研究的思考方法の基礎を修得することによって、将来、臨床とともに研究も行いうる資質をもっている	互いの専門性の理解のうえにたつた対等な立場でのチーム医療や連携実践のあり方を追求する能力を有している	今後のさらなる医学・医療・保健の高度化・国際化・情報化に対応して活躍する力をもっている	
学部基幹	医療概論	1		◎	○			◎	◎	保健・医療・福祉の統合が求められる社会状況の中、医療チームの成員が互いに協力して、総合的サービスを提供することが重要である。一つの問題に対して、多職種がそれぞれの専門的立場からアプローチし、意見を交換することによって全人的治療は実現する。良好な医療チームの形成は、他の専門職種を理解することから始まる。医療に関わるスタッフのそれぞれの学問体系、役割、機能、権限などを知り、相互理解を深め、症例を通して連携の方法論とチームダイナミクスについて考察する。模擬患者を利用し、カンファレンス、記録のあり方、チームによる全人的アプローチなどについて学ぶ。

看護学科 専門科目（2019～2021年度第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
学科基礎	入門ゼミ	2	◎	○					「専修学習のための日本語表現」での学びを活かしたうえで、大学で主体的で自律的に学ぶための、基本的な学び方（課題発見、課題に応じた情報や文献の探索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。
	基礎解剖学	1		◎	○				解剖学は、生物体の正常な形態と構造とを研究する学問であり、医学の領域では人体解剖学を指す。この人体解剖学では、人間の身体づくりや形について学ぶが、その基礎は構造を明らかにすることであり、人体の構造全般について教授する。
	基礎生理学	1		◎	○				生理学は、生物の生理機能を研究する生物学の一分野であり、医学では解剖学・形態学と対置されるものであると同時に、病理学と対義的に用いられることもある。このような生理学は、生命現象のありのままを研究するものであり、内分泌生理学、細胞生理学、神経生理学、電気生理学、大脳生理学などの分野があるが、これらの基礎的な部分を教授する。
	栄養学	2		◎	○				栄養学とは、食品やその中の成分、栄養素がどのように人間の体の中で利用され、影響を及ぼしているかを研究する学問であり、近年では栄養状態が医療行為を行ううえでも重要視されている。それは、栄養が生命維持は言うに及ばず生活活動や健康の維持・増進に必要な物質を外界から取り入れてこれを利用する現象を指すからである。この栄養学を医療および看護に関連させて講義する。
	病理学概論	2		◎	○				医療では予防、診断、治療、リハビリテーションが重要であるが、病気の原因は診断に不可欠である。この診断に欠かせないのが病理学であり、細胞をつないでいる組織を診断する組織診および細胞診、病理解剖から成り立っている。したがって、病理学は、体内の異常を調べ、病気の原因および病気になる機序を研究する学問であり、これらを概論的に教授する。
	公衆衛生学	3		◎			○		公衆衛生学とは「組織化した地域活動を通じて、疾病の予防、生命の延長、および肉体的精神的健康の確保と増進を図る科学・技術である」であり、疾病対策や保健・福祉対策の現状と仕組み、疫学研究手法、主要疾病の疫学と予防などについて学習するとともに、公衆衛生の領域の社会的諸問題についても教授する。
	社会福祉	2		◎				○	社会のなかで、だれもが生き生きと豊かな生活を送るために必要な社会福祉について学ぶ。社会福祉とは何か、社会福祉の概念・理念、歴史、諸制度など、自らの生活に身近な社会福祉について理解を深める。そのことを通じて、「人が生活する、暮らす」、ということの意味を考え理解を深める。 ① 社会福祉とは何か ② 人間の尊厳と社会福祉の概念・理念 ③ 社会福祉の歴史 ④ 社会福祉の法制度・諸施策 ⑤ 社会福祉の分野 ⑥ 社会福祉の行財政 ⑦ これからの社会福祉
	生化学	1		◎	○				人間が健康に生きていくためには、全身的恒常性を保つことが大切である。恒常性を維持するため、常に外界との間で物質交換がおこなわれており、それが化学的・物理的法則に基づいて繰り返される様々な化学反応に依存したものであることを、生化学の分野から概説する。生体分子の構造と化学的性質、生体触媒である酵素の役割を中心とした生体エネルギー学と代謝、遺伝情報の伝達等について講義する。また、近年は遺伝子診断が広範に実施されている。医療従事者に必要とされる基礎的知識を概説し、あわせて遺伝子検査に関わる生命倫理についても解説する。
	疾病論Ⅰ	2		○	◎				看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識として、内科系疾患をもつ患者の病態生理、症状、検査、治療について学ぶ。呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝疾患
	疾病論Ⅱ	2		○	◎				看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識として、外科系疾患をもつ患者の病態生理、症状、検査、治療について学ぶ。創傷治療、救急医療、麻酔、輸血などの総論に続き、消化器系疾患、心・血管系疾患、呼吸器系疾患、感覚器系疾患、筋・骨格・運動器系疾患、等。
疾病論Ⅲ	3		○	◎				看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識として、疾病論Ⅱに引き続いて、内科系疾患をもつ患者の病態生理、症状、検査、治療について学ぶ。脳・神経疾患、血液疾患、腎・尿路疾患、感染症、自己免疫・アレルギー性疾患、皮膚疾患、等。 また、小児領域の疾患をもつ患者の病態生理、症状、検査、治療について学ぶ。	

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
学科基礎	疾病論Ⅳ	3		○	◎				看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識として、母性・精神領域の疾患をもつ患者の病態生理、症状、検査、治療について学ぶ。
	感染免疫学	2		◎	○		○		感染症疾患やアレルギー・免疫疾患の近年の傾向を知り、在宅および病院・施設内において発生する感染症疾患やアレルギー・免疫疾患に関する問題を理解する。その上でそれらの予防対策と対処方法について、具体的な注意点や他職種との連携の仕方などについて学ぶ。
	仏教看護論Ⅰ	1	◎	○					仏教の教えに基づく看護を学ぶにあたり、「人間の生を支える」という視点に立ち、仏教に説かれている医学・看護について学ぶ。ここでは、仏教の世界観・人間観・人生観を理解し、医学については、古代インド、中国の伝統医学と西洋医学との違いについて学ぶ。
	仏教看護論Ⅱ	1	◎	○					仏教の受容と日本人の死生観（人間観・人生観）を考察する。その上で、日本における看護の歴史に着目し、古代より展開されてきた仏教を介した看護・福祉・ケアの事績をたどりながら、その意義や価値について学ぶ。
	薬理学	3		◎	○				薬物の作用機序、生体反応、体内動態の基本的原理の総論的な学びの後で、自律神経作用薬、心臓血管作用薬、呼吸器作用薬など各種薬物の代表的なものについて、作用機序、体内動態、薬理作用と適応症状・副作用を学ぶ。これらの学習により実践の場で薬理効果の確認、副作用の早期発見や投薬ミスの防止に役立てる。
	保健統計学	2		◎	○		○		保健医療分野におけるさまざまな解析事例を通して、保健統計とその見方、統計手法の基本的原理とその有効性、研究デザインとデータ収集法など、保健医療分野における代表的な統計技法について学ぶ。
学科専攻	看護学概論	1	○	◎	○				看護の基本概念である「人間」「健康」「環境」「看護」の4つの概念とその関連について学ぶとともに、看護の歴史の変遷や看護の機能および看護の専門性を理解する。また、看護倫理とは何かを考え、患者の権利擁護者としての看護の役割について学ぶ。
	看護実践基盤技術論	1	○	○	◎				（看護活動の共通技術） あらゆる健康レベルの対象への看護行為に共通する基本技術を学ぶ。人間関係を成立発展させるための技術（コミュニケーション技術、ボディメカニクス、安全に患者を移動する技術、療養環境の調整、感染防御技術（スタンダードプリコーション）などを学ぶ。
	フィジカルアセスメント技術	1	○	○	◎				（フィジカルアセスメント） 看護におけるフィジカルアセスメントの意義や重要性を理解し、頭部から足先までの全身状態を観察するフィジカル・イグザミネーションの基本技術（視診・触診・打診・聴診等の技術）について、講義及び演習を通して学ぶ。
	日常生活行動援助技術論	2	○	○	◎				（生活援助技術） 日常生活行動が自力で行えなくなった患者を援助するための知識と技術を学ぶ。ベッド内環境を整える援助、衣生活の援助、身体の清潔を保つ援助、排泄の援助、食事の援助など。
	看護実践過程論	3	○	○	◎				（看護過程） 専門的な看護実践の基本となる看護過程について、意義と構造と展開方法を学び、あわせてクリティカルシンキングの能力についても学び、看護実践を対象の特質に基づいて有効に進めていくために必要な基礎を学ぶ。演習では、ペーパーパシエント（モデル事例）を用いて、看護過程を展開する。
	診療援助技術論	4	○	○	◎				（診療補助技術） 健康上の問題を持つ対象が安全に安楽に診療が受けられるように共通基本技術を基盤とした診療に関連する知識と技術を学ぶ。無菌操作、創傷管理、検査や治療時の技術（検体採取法・静脈血採血）、与薬の技術（経口与薬・筋肉注射・静脈内注射・点滴静脈内注射）、など。
	基礎看護学実習Ⅰ	2	◎	○	○				健康上に問題があり日常生活に支障を来している個人（患者）を理解するために、既習した観察技術や生活行動援助技術、コミュニケーション技法を積極的に活用し、看護を体験する。また、看護活動の場や看護の実際を見学し、看護師の役割と責務、看護の機能について理解する。
	基礎看護学実習Ⅱ	3	○	○	◎				健康上に問題がある個人（患者）との人間関係を形成しながら生活者としての患者理解を深める。また、各分野実習の基礎となる看護過程の展開方法を用いて、患者の健康状態を把握し、患者の健康を最大限に回復・維持・促進するために必要な看護を実践する。また、入院生活・疾病が患者に及ぼす影響について理解し、対象者の状態に応じた看護計画を立案し、実施・評価するとともに、医療チームの一員として、看護師の役割や責務を理解する。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
学科専攻	成人看護学概論	2		◎	○				成人各期の対象の発達段階や発達課題、健康問題を理解し、成人期に特有な生活習慣、仕事、セクシュアリティ、生活ストレス等と関連した健康障害の予防、健康回復や心身の安寧に対応した看護について学ぶ。また、多様な価値観や健康観をもち、さまざまな健康レベルにある生活者としての成人への看護に有効な概念を学習する。
	成人看護急性期方法論Ⅰ	4		○	◎		○	○	生命の危機的状況にある成人および手術治療をうける周手術期にある成人の、侵襲による心身への影響を理解し、生体侵襲反応、生命の維持や回復過程における看護について必要な知識や援助方法を学ぶ。また、急性期にある成人を支える家族に対する看護についても必要な知識や援助方法を学ぶ。
	成人看護急性期方法論Ⅱ	5		○	◎		○	○	急性期にある成人とその家族に対する具体的な看護援助について理解し、基本的な看護技術を習得する。また、急性期にある成人患者の代表的な事例を取り上げ、対象の発達段階をとらえた健康障害の理解と、看護過程の展開方法について学ぶ。
	成人看護慢性期方法論Ⅰ	3		○	◎		○	○	慢性の病気をもちながら生活している人とその家族の身体的、心理・社会的特徴を理解し、対象のセルフマネジメントやセルフケア能力の維持・向上をめざした看護援助の理論と方法を学ぶ。
	成人看護慢性期方法論Ⅱ	4		○	◎		○	○	慢性の病気をもちながら生活する成人とその家族に対する具体的な看護援助について理解し、基本的な看護技術を習得する。また、代表的な慢性疾患をもつ成人患者の事例を取り上げ、対象の発達段階をとらえた健康障害の理解と、看護過程の展開方法について学ぶ。
	成人看護学実習Ⅰ	6		○	◎		○		急激な健康破綻により健康の危機状況にある成人患者とその家族への看護実践に必要な知識と技術を習得する。また、侵襲下にある状況を理解し、異常の早期発見・予防、苦痛緩和、心理的安寧を図るとともに、回復促進や生活の再構築に向けて、患者・家族が主体的に取り組めるよう支援するための基礎的な看護実践能力を養う。
	成人看護学実習Ⅱ	6	○	○	◎		○		慢性疾患をもち生涯にわたりセルフマネジメントやセルフケアが重要となる成人患者および終末期にある患者とその家族への看護実践に必要な知識や技術、態度を実践を通して習得する。また、患者・家族の健康上の諸問題について理解し、症状コントロールや心理的安寧を図るとともに、療養や生活の編みなおしに向けて患者・家族が主体的に取り組めるよう支援するための基礎的な看護実践能力を養う。
	老年看護学概論	3		◎	○		○	○	高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴を理解し、現代社会における高齢者の健康上の問題や老年看護の独自性を学習する。また、高齢者と家族の生活および健康を支える保健・医療・福祉システムについて学習し、老年看護の機能や役割を理解する。
	老年看護方法論Ⅰ	4		○	◎		○		ライフステージにおける老年期の特徴を高齢者の身体的・心理的・社会的側面から理解し、高齢者の生活の質の維持・向上を目指した看護を行うための理論や援助方法について学習する。
	老年看護方法論Ⅱ	5		○	◎		○		老年期に起こりやすい症状や高齢者のセルフケア能力について理解し、健康障害をもつ高齢者の看護に必要な知識や援助技術を習得する。また、健康障害を抱える高齢者の代表的な事例を取り上げ、老年期の特徴および対象の発達段階をとらえた健康障害の理解と、看護過程の展開方法について学ぶ。
	老年ともいき実習	3		◎	○		○	○	地域で暮らす高齢者が集まる場や暮らしの場を訪れて、様々な高齢者とのふれあいやかわりあいをとおして、高齢者の日常生活や暮らし、生活史や価値観などについての理解を深め、高齢者を尊重し、共に生きる看護を実践できる態度の基盤を作る。
	老年看護学実習	6		○	◎		○	○	高齢期の特徴および加齢に伴う生活の変化を身体的・心理的・社会的側面から理解するとともに、高齢者の日常生活行動や健康状態をアセスメントし、健康レベルに応じた看護援助を計画・実践・評価し、知識や技術を習得する。また、家族を含めた看護援助や在宅療養を見据えた援助の必要性についても理解し、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割や責務を理解する。
	小児看護学概論	3		◎	○		○		現代社会における子どもとその家族の健康上の問題や小児看護の特性を学ぶ。主な内容として、小児看護の概念、母子保健の動向と対策、小児看護の変遷と課題、小児の成長・発達段階に応じた援助、小児看護の機能と役割について学ぶ。
	小児看護方法論Ⅰ	4		○	◎		○		健康障害をもつ子どもとその家族に対して必要な看護援助の内容や方法、適切な看護を行うための基礎的知識を学ぶ。 内容としては、健康障害が子どもと家族へ及ぼす影響、急性期・慢性期・周手術期・終末期にある小児の看護、行動制限に伴う小児の看護、心身障害児の看護、事故防止と感染予防などについての知識と看護援助の方法について学習する。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力(知識・技術・態度)を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
学科専攻	小児看護方法論Ⅱ	5		○	◎		○		子どもの成長発達と健康生活を促進するために必要な知識や看護援助技術を習得する。また、健康障害をもつ子どもに必要な看護援助について理解し、基本的な小児看護技術を習得する。 さらに、健康障害をもつ小児の代表的な事例を取り上げ、小児の特徴および発達段階をとらえた健康障害の理解と、看護過程の展開方法について学ぶ。
	小児看護学実習	7		○	◎		○		「子どもの権利」の尊重を基盤にして、健康な子どもを理解するとともに、健康を障害された子どもとその家族に応じた看護実践に必要な知識や技術を学ぶ。 幼稚園実習では、子どもとの関わりを通して、健康な子どもの成長・発達の特徴を理解する。また、子どもの安全な生活とその保持、事故の防止について理解する。病院実習では、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響について理解し、健康障害をもつ子どもと家族のアセスメント(分析・解釈)を行い、看護計画に基づき看護を実践、評価する。
	母性看護学概論	3		◎	○	○			母性看護の概念、母性看護の歴史の変遷、関係法規等について学ぶ。また、女性のライフサイクルにおける各期の健康上の特徴、生涯にわたる健康の維持・増進、疾病予防への援助、女性をとりまく社会の現状と課題、母性看護が展開される場の多様性や看護支援について学ぶとともに、母性看護の役割や課題についても学ぶ。
	母性看護方法論Ⅰ	4		○	◎		○		周産期にある事例を通して妊産婦の身体的・精神的・社会的特徴および新生児の特徴について学ぶ。また、対象の正常な経過を理解したうえで、適切な看護が安全・安楽に行われるための知識と援助方法について学ぶ。
	母性看護方法論Ⅱ	5		○	◎		○		周産期にある事例を通して褥婦を中心とした身体的・精神的・社会的特徴について学ぶ。産後の継続的ケア、保健指導など基本的な母性看護技術を習得する。また、妊娠期から産褥期を通じた事例を取り上げ対象の特徴および発達段階をとらえた看護過程の展開方法について学ぶ。
	母性看護学実習	7		○	◎		○		周産期にある女性とその家族との関わりを通して、周産期を通じた家族の発達や女性のライフサイクルにおける母性看護の役割について理解する。また、地域における母性看護の役割や継続看護の必要性を理解する。 妊娠・出産・産褥各期の女性の特徴および新生児の生理的特徴を理解したうえで観察・アセスメントを行い、必要な看護援助を実践する。
	精神看護学概論	3		◎	○	○			精神の健康を理解するための諸概念を学習し、対人関係やライフサイクルの各時期における精神的健康に関する課題と危機について理解する。主な内容は、精神看護の基本理念、心のしくみ、精神医療・看護の歴史の変遷、精神保健福祉の法制度、現代社会における精神看護の動向や機能・役割について理解する。
	精神看護方法論Ⅰ	4		○	◎		○		看護的な患者理解の方法としてのプロセスレコードの活用を通して臨床的な対人関係について理解をふかめる。バイオ・サイコ・ソーシャルモデルによる対象理解を学ぶ。統合失調症、気分障害、アルコール依存症、せん妄、神経症性障害等主な精神疾患の治療、看護援助の方法について学ぶ。
	精神看護方法論Ⅱ	5		○	◎		○		より実践的な精神疾患の治療・看護について学ぶ。主な精神疾患の事例を通して疾患理解を深めるとともに、原則的な治療・看護、長期在院者の退院支援、セルフケアアセスメント、症状マネジメント、薬物療法支援の在り方等について学ぶ。
	精神看護学実習	7		○	◎		○		精神の健康について支援を必要とする人々を理解し、人権を擁護しながらセルフケア能力を高め、地域へつなげていくための看護実践に必要な知識や技術を学ぶ。 精神障害者を多様な側面から理解し、看護援助の在り方について学ぶ。入院医療だけでなく、デイケアや自助グループ、就労支援等の入院外医療、福祉についても学ぶ。その際、他職種との連携、家族支援についても理解を深める。
在宅看護学概論	3		◎	○	○	○		在宅看護の特徴や機能、看護の役割について理解する。主な内容は、在宅看護の歴史の変遷、在宅看護の機能と特徴、療養者と家族のニーズ、在宅看護に関連した社会制度やケアシステム、保健医療福祉の関連職種との連携・協働、在宅看護の現状と課題について学ぶ。	
在宅看護方法論Ⅰ	4		○	◎		○	○	在宅で療養する人の症状・状態別の看護、治療・処置に伴う援助技術について、在宅看護が実施される場と活動の特性をふまえて学ぶ。また、家庭訪問における面接方法、療養者や家族に対する相談・指導の方法、社会資源の活用などについても学ぶ。	

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要	
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力(知識・技術・態度)を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している		
学科専攻	在宅看護方法論Ⅱ	5		○	◎	○	○		在宅における療養環境、食事、排泄、清潔、移動・運動についての生活支援や家族支援の方法を学ぶ。また、在宅でのリハビリテーションやターミナルケア、在宅で医療的管理を必要とする人の医療処置・安全管理に伴う看護、合併症の予防と生活指導についての知識と技術を学ぶ。さらに、代表的な事例を取り上げ、在宅で療養する人とその家族の生活上の問題などをふまえた看護過程を展開する。	
	在宅看護学実習	7		○	◎	○	○		在宅ケア連携システムの概要を学ぶとともに、地域で生活している在宅療養者とその家族への理解を深め、生活の場で看護実践するために必要な知識や技術を学ぶ。 また、訪問看護事業所の機能と役割・運営、在宅療養時のケアの連携システム、看護師と保健・医療・福祉の他職種者との連携や社会資源の活用についても理解する。	
	公衆衛生看護学概論	4		◎	○		○		公衆衛生看護の歴史の変遷、公衆衛生看護の概念、公衆衛生看護の意義を知り、保健・医療・福祉との関連から公衆衛生看護の位置づけを理解する。また、公衆衛生看護活動の展開の場とその業務概要を把握し、地域における健康問題が起こる背景および公衆衛生看護の活動の概要を学ぶ。	
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	4		◎	○		○		地域に生活する対象のライフサイクルや健康課題に応じた支援の基本的な考え、アプローチ方法について学ぶ。また、公衆衛生看護の対象を個人・家族に加えて、人々の集合体である集団として把握し、集団や地域全体を対象に活動することの特徴を学ぶ。	
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	5		○	◎	○			人々が自らの健康を維持・増進し、生活の質を高めていくことができるように、保健行動や保健指導、健康相談の基本的な理論と方法を学ぶ。また、健康教育の理念や理論について理解し、健康教育の企画から実施、評価までのプロセスと方法について学ぶ。	
	公衆衛生看護展開論Ⅰ	5		○	◎	○			様々な健康段階にある人々の健康的な生活を支援するために必要な技術を学習する。家族を単位とした援助の基本と重要性を理解し、家庭訪問の展開方法を学ぶ。また、健康診査について学ぶ。	
	公衆衛生看護展開論Ⅱ	5		○	◎	○			学校における児童・生徒や場の特徴、健康課題を理解し、個人・家族、学校組織を対象とした保健活動を学ぶ。また、産業における労働者の健康生活の特徴、健康課題を理解し、労働者個人・集団、組織を対象とした保健活動について学ぶ。	
	公衆衛生看護活動論	7			○	◎	○	○	地域の健康課題を把握し、問題解決のための地域保健活動を実践するための能力を身につける。そのために、地域特性をふまえた地域診断のプロセスを学び、地域診断に基づく活動計画を策定、展開、評価する視点と方法を学ぶ。	
	公衆衛生看護管理論	5		○	◎	○	○	○	地域診断の視点と方法の基本を学ぶ。公衆衛生看護活動の組織や財政のしくみ、管理、評価、社会資源の開発、健康危機管理など、公衆衛生看護管理について理解する。また、地域住民、関係機関や他職種との連携、グループ支援、地区組織への支援、地域ケアシステムの構築、施策化について理解する。	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	7		○	○	○	○	◎	○	産業保健現場での見学・体験を通じて、労働者の健康の視点から就労生活と健康問題について学ぶ。労働と健康問題の関連を考えながら、個人・集団・組織への支援の展開を学ぶ。また、学校保健現場では児童、生徒の健康生活の実際を知り、特性と課題、支援に関する基礎を学ぶ。
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	7		○	○	○	○	◎	○	保健所や市町村で行われる公衆衛生看護活動の見学、体験を通して、地域住民の生活と地域の健康課題を理解する。また、各種保健事業を通じて、個人・家族・地域のセルフケア能力を高めるための援助方法を学ぶ。さらに、地域の社会資源との協働と保健師の役割を理解する。最終的に、公衆衛生看護学実習での学びを通じて、公衆衛生看護の意義、保健師の役割と責務を考える。
	看護研究Ⅰ	7					○	○	◎	看護研究の意義、研究成果の公表の必要性、看護研究における倫理的な配慮、看護研究のトピックス、看護専門職者として研究に関する生涯学習の必要性を理解する。また、質的・量的な研究方法論、文献検索やクリティークの方法、研究テーマの絞込み、研究計画書の作成、学術論文のまとめ方などについても学ぶ。「統合実践看護実習」と連動する。
	看護研究Ⅱ	8					○	○	◎	研究計画書を再検討し、倫理的な配慮のうえで、研究計画書に沿って実習を行い、その成果を論文としてまとめる。
	統合実践看護実習	8					○	○	◎	看護学の学習を土台に、学生各自が医療や看護の今日的テーマや課題を選定し、学習課題を採求する実践過程を通して看護実践能力の向上を図る。 学生各自がテーマ・学習課題を明確にし、科学的思考に基づいた看護実践を展開する。さらに、保健・医療チームの一員としての行動を心がけ、専門的な実践活動について主体的に学ぶことにより看護観を深め、自己の看護活動の発展の方向を考えるきっかけとする。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力(知識・技術・態度)を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
関連	国際・災害看護学演習	5				◎	○	◎	諸外国の社会、経済、教育、文化的な相違の理解のもとに、世界の健康問題と看護の現状・課題について学ぶ。また、途上国の人々の主な健康課題と、貧困を基盤とする健康に影響を与える要因を構造的に理解する。また、途上国の限られた資源を最大限に活用し、住民の参加によって人々の疾病予防、健康の維持・増進を図るプライマリヘルスケアの取り組みについて学ぶ。 災害の定義、災害に対する支援制度とシステム、災害サイクルにおける災害予防と応急対策、救急体制とトリアージ、災害復旧・復興各期における対策の概要について学び看護の役割を学ぶ。また他の専門分野と協力して命や健康生活に災害が及ぼす被害を極力少なくするための看護活動を展開する方法を学ぶ。
	看護倫理学	7		◎	○				看護実践の指針となる看護倫理を体系的に理解し、臨床場面で遭遇する倫理上の問題に気付き、意志決定を助ける倫理的分析および判断力を養い、自律した看護実践ができる能力を培うために、実習事例を通して学ぶ。
	疫学	4		◎	○	○			疫病に限らず自殺や事故の多発現象など、人間集団の疾病や健康事象の発生状況を把握し、それに影響を及ぼしている要因や条件を分析し、有効な対策を計画し、対策の評価を行うという科学的な思考とその一連の方法について学ぶ。
	臨床心理学	3	○	◎	○				幼小児期から壮年・老年期までの生涯発達という捉え方を基礎にして、各発達期を相互に関連付ける時系列的な理解をするとともに、生活を医療・福祉にとらわれずに幅広く捉える空間的理解の相互作用の中で統合する視野を身につける。また各発達段階での課題達成の状況が障害を抱えた際にどのように影響してくるかを自己決定、自立をキーワードにして学ぶ。
	保健医療福祉行政論	3		◎		○	○		国と地方における保健医療福祉に関する政策の連携、行財政の実態と問題状況を理解しつつ、地域における保健医療福祉の課題を認識する。その上で、市町村の地域福祉力の展望を模索し、21世紀における地方の保健医療福祉社会のパラダイムについて理解を深める。
	精神保健学	1	○	◎	○				かつての「精神衛生」という言い方は、その後「精神保健」という言い方に変わり、「精神衛生法」も「精神保健法」を経て、今では「精神保健福祉法」にかわった。このような変更の精神に基づき最も現代的な視点からこの問題を考えていく。
	死生の哲学	4	◎	○					死生とはなにか、死生を哲学するとはいかなることかなど、死生を哲学すること、否むしろ、哲学的に死生することを根本的に考えることを試みる。ヨーロッパの死生の思想を、プラトン(『パイドン』)とハイデッカー(『有と時』)を通して。
	エンドオブライフケア論	5		○	○			◎	エンドオブライフケアとは、死を迎える人や、あるいはいつか来る死について考える人に対して、最期まで最善の生を生きる事ができるように支援することである。また、そのケアでは、老いや病を抱えながら生活を続ける人々の「その人らしさ」や「生き方」を探究することを支援することが重要である。 本科目では、エンドオブライフケアを実践するために、必要な知識・技術・態度を習得する。具体的には、自分も含めた人の死についての考えを内省するとともに、死を意識した人々に対する全人的苦痛の緩和や意思決定支援、家族ケアやグリーフ・ビリーフメントケア、多職種による支援のあり方について学ぶ。
	看護管理学	7					○	◎	質の高いケアを提供するための組織構成、情報収集とその処理、人材育成などのマネジメントについて学ぶとともに、今日的な課題や社会情勢を看護の役割・機能の視点から分析し、今後の看護管理のあり方やリーダーシップについて学ぶ。
	看護教育学	8					○	◎	看護師養成教育、看護学教育制度の変遷とその背景について学び、その現状と課題を明確にしたうえで、看護学の発展に向けた看護専門職の教育(含海外の看護学教育)や看護継続教育のあり方を学ぶ。また、看護学修得者としての将来像を描く機会とする。
	仏教看護論Ⅲ	5	○	◎					ターミナル・ケアに焦点をあて、仏教看護の果たす役割の意義について、その目的や定義ならびに歴史について学ぶとともに、主に近世の臨終行儀書や往生伝をテキストにケース検討を通じて、多様な「生きざま」と「死にざま」についても理解を深めていく。
	仏教看護論Ⅳ	5	○	◎					現代社会が抱える「いのち」をめぐる諸課題に仏教看護は何ができるか?時事問題を取り上げ、講義と演習形式(グループ・ディスカッション等)を通じて、思考の整理を行い、現場実践で必要とされる判断力・協調性について学ぶ。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			看護活動の場において共感性や豊かな人間性を発揮できる能力を有している	看護学および隣接領域に関する学識を看護活動の場において発揮できる能力を有している	基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を備え、それを発揮できる能力を有している	看護活動を通して地域社会への貢献ができる能力を有している	看護学および隣接領域の諸分野と連携して活動できる能力を有している	医療の高度化、情報化、国際化に対応できる能力を有している	
関連	ホリスティックケアアプローチ	8		○				◎	ホリスティックナーシングは、人を身体（body）、心（mind）と魂（spirit）が統合され、社会や自然環境との調和の中で生きている全体的（ホリスティック）な存在としてとらえ、科学的視点をもちつつ「癒しの技」を用いてケアをする看護であるとされている。このような看護が目されるようになった背景、および現在ホリスティックナーシングとして実践されているケアを学ぶ。さらに4年間学んできた既習の看護理論、看護技術、統合医療としての補完・代替療法、さらに本学の特徴である仏教看護論をふまえて、看護において人をホリスティックに捉え、ケアをするということはどのようなことかを考える。